

15番(門脇 助雄君) 今日の問題は、町長から見ると、すべて右側に座った者5人です。右ではありません。左でもなく、中立的な立場で議論をさせていただきたいと思います。

そんな中で8月23日、私たち総務建設常任委員会は、かねてから希望しておりました四日市市水道施設、取水場の現地視察を行いました。前もって水谷事務局長より、四日市市から取り寄せていただきました平成21年、平成22年度の取水量の資料をもとに、現地で四日市市水道局の田中技術部長より詳細な説明を受けました。時間の関係上、詳しいご説明は、議会だよりの9月号で報告いたしますので、読んでいただきたいと思います。

なお先般、水谷町長より、8月17日、18日、19日の3日間にわたり、東日本大地震被災地の現地視察の報告がありました。私たち総務建設常任委員会も10月26日、日本自治創造学会仙台大会に出席をし、宮城県の南三陸町の佐藤町長、そして岩手県の宮古市の山本町長、このお二人の市町は大きな津波で多くの犠牲者が出ております。そして日々悪戦苦闘をされておりますが、この勉強会にお二人の町長、市長も出ていただきまして、報告会等もありますので、勉強してまいります。帰りましたら町長と議論しながら、安全・安心のまちづくりを進めていきたいと思っております。

そして多くの町民から、「がんばろう日本」のご声援をいただき、町が行いました募金、あるいは救援物資に随分ご協力をいただいておりますことを、この場をおかりして感謝を申し上げたいと思っております。

そんな中で8月23日、中日新聞の時事川柳で、町内にお住まいの清水健吾さんは、次のように寄せてみえます。「被災地の空へ羽ばたけ千羽鶴」と時事川柳で歌われ、立派な作品が投函されておりましたのが目につきましたので、ご報告をさせていただきます。

それでは最初の問題に入らせていただきます。

中部公園のバランスのとれた施設配分ということで、1点目、お尋ねしたいと思います。

現在の中部公園を見ておきますと、西方向の管理棟付近に、随分さまざまな施設が集中しております。そして東方向は、調整池はありますが、もうその付近は草ぼうぼうでほったらかし、そして夜間になりますと真っ暗闇であります。民間の大型開発などで見てみますと、調整池と駐車場を兼ねた開発も目につきます。バランスのある施設配分なども考慮してもらいたい。構想があったらお聞かせいただきたいと思います。

議長(山本 陽一郎君) 水谷町長。

町長(水谷 俊郎君) 門脇議員の中部公園のバランスのとれた施設配分を、とのご質問にお答えをさせていただきます。

中部公園は、自然と豊かな水辺環境の中で人と水が触れ合い、人々の交流の拠点と自然体験の広場として、平成16年に開園をいたしました。

この公園整備は、「快適で緑豊かなまちづくりの推進核となる空間整備」、「文化活動の拠点となる施設づくり」、「住民が集い、にぎわい、参加交流する場づくり」、「身近な自然環境の創出と触れ合いの場づくり」を基本方針に、公園の中心となる管理棟付近を「にぎわいゾーン」として交流広場の拠点、公園北方向には「森と水の文化ゾーン」として、水環境・景観を中心とした空間づくり、公園中央から南方向は「森のゾーン」として芝生広場や植樹等の整備を行い、ご質問の公園東方向の調整池付近につきましては「自然生態ゾーン」として、河川広場と自然生態などの観察が行えるような配置になっております。

全体的にそういう整備を行っておりますので、今後、公園管理・整備につきましては、各ゾーンの特性を生かし、施設の安全管理に努め、町民の触れ合い・交流の場の確保と、緑を保全し、自然環境を生かした空間整備に、引き続き取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 門脇議員。

15番（門脇 助雄君） この中部公園の東方向の利用ですが、先ほども申しましたように、夜間と昼間とでは、もうガラッと姿が変わってしまいます。せっかくあの広い調整池も持っております。

私は道の駅構想、そして地場産業振興施設構想は、ぜひあの場所でも実現してもらいたい。そしてその建物の中には、町から補助金を出しております各種団体、例えば旧神田駐在所にはシルバー人材センター、あるいは商工会館の中には観光協会など、各種団体の事務所が散らばっております。それらの散らばっておる事務所を総合した総合事務所、その道の駅構想の中に入れていただければ、各種団体の経費削減と効率化が可能と考えますが、お答えいただきたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 先ほども答弁させていただきましたように、あくまでもあのゾーンは使っていないのではなくて、自然生態ゾーンということで活用をさせていただいております。

夜間にライトをつけたり、明るくしたりということも考えられないわけではないのですが、それが生態にとっていいものかどうかということもございまして、現状の管理をさせていただいております。

今もう一つご質問のありました、補助金の出しております外郭団体を一つにまとめてつくったらどうだということに関しましては、それぞれ適当な場所がございますし、それぞれの活動をしていただいております、役所でどうのこうのという指示をさせていただくものではない。あくまでも民間団体でございますので、自主的な方向性

というものをお持ちであると考えておりますので、ご理解をお願いを申し上げたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 門脇議員。

15番（門脇 助雄君） 将来構想として、また道の駅構想も、町長の頭の中にぜひ入れておいていただきたいと思います。

それでは2番目の問題に移らせていただきます。

陸上競技場の問題でございますが、夏休み中、多くの学生が利用してくれました。いろいろな種目の紹介、あるいは選手の呼び出し等について、放送が風の向きによっては、長深に住んでおっても聞こえてまいります。大変いい姿であります。

実は来年度、平成24年度は日本陸連の二種公認の年であります。鈴木三重県知事は、三重県に国体を誘致するんだというスポーツ振興を掲げてみえます。しかしながら、この桑員地方、桑名・員弁・北勢地方には、四日市市を除いて県の施設は全くありません。

このような東員町の立派な陸上競技場を三重県とともに共有の財産として維持管理、あるいは利用をして、そしてもうちょっと飛躍したら、町の陸上競技場を県に買い上げてもらうような議論もしていただきたい。

そしてこの陸上競技場の使用料の収入は年間200万円、あの陸上競技場を維持管理していくのに年間1,500万円要ります。さらに来年になりますと、先ほど申しました日本陸連の更新時期であります。2,000万円以上は必要になってまいります。それらの金の捻出方法も、県と北勢地方で持っている東員町の陸上競技場を共有財産として、立派な後世に残せる施設として引き継いでいきたいと思っておりますので、トップ会談等で、どうぞそこいらの折衝も町長はしていただきたい。

そして平成19年6月の時に、公共施設、特に陸上競技場、野球場ですが、あそこの命名権の売却を提案した経緯がございます。その経過がどうなっておるのか。そして広告収入というのは、自治体の税金や国から来るお金から見れば、わずかでございますが、起爆剤、あるいは職員の意識開発、意識改革、そして町長のトップセールスも期待して答弁を求めたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 陸上競技場の問題点につきまして、ご質問をいただきました。お答えをさせていただきます。

陸上競技場は、平成4年の開場以来20年を迎えることになる。ご指摘のように平成24年、来年度には5回目の日本陸上競技連盟第二種公認の更新となる予定でございます。

公認の継続につきましては、ルール改正や経年劣化に伴う改修などに多額の費用が必要であり、公認競技場としてのあり方を十分に検討しなければなりませんので、現在、有効性・必要性などの視点で関係機関と詰めることといたしております。

議員ご提案の三重県との共有財産にし、維持管理してはどうかということにつきましても、論理的には十分納得できるものと考えられますので、私といたしましても、県に対し、その旨お話しもさせていただきたいと思います。

次に、本町には陸上競技場をはじめ多くの公共施設がございます。各施設の利用促進を図るため、近隣市町や企業、大学に施設のPRを行うとともに、命名権につきましても、過去にもお話し合いさせていただいた経緯がございますが、企業にとりまして広告宣伝効果が余り期待できない、そういうことということから話が進んでいないのが現状でございます。

しかしながら今後もあきらめることなく、地道に公共施設の利用促進、命名権売却に努力をしてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますよう、お願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 門脇議員。

15番（門脇 助雄君） 実は三重県が国体を誘致しようというのは、あと10年の2021年度を目標にしております。そして県の体育協会も、これは四日市市で元県会議員の岩名秀樹さんが会長をしておってくれますが、ぜひ活性化に向けて、三重国体を誘致しようとして動き出しました。動いてみえます。

しかしそんな中で、「美し国三重市町対抗駅伝大会」、今年で5回目を迎えます。その駅伝大会が、どういういきさつか知りませんが、三重県の中で事業仕分けの対象になっておると伺います。そうすると事業仕分けということは、もう悪かったらここでやめ、ここで切るという作業の対象に「美し国三重市町村対抗駅伝大会」が上がっております。

先ほど申しましたように、鈴木知事は口先ではスポーツ振興、スポーツは振興せなあかんと言ってみえます。どうもそこいらが、言っていることと、実際やられようとしていることが違うように思います。

この「美し国三重市町村対抗駅伝大会」、私たちも議会から毎年応援に、はせ参じさせていただいております。そして最終ゴールは伊勢にあります県営の陸上競技場です。あそこへ飛び込んできてくれる東員町のチームをみんなで迎えるのですが、毎年上位入賞、2位、3位でやとってくれます。そして幸いにも、東員町は立派な監督や、あるいはコーチに恵まれて、やと地についてきたなと思われる姿でございます。

そしてこの駅伝大会をやるには、日本陸連の公認コースです。3年ぐらいの準備期間をかけ、そして警察も総力を上げた白バイからパトカーの動員体勢、そして三重県下のJAがスポンサーになっての、これも応援体勢、そして報道機関、それらの多くの協力団体があって実現するものです。どうか継続発展ができるように、そして何が原因で野呂知事が任期の途中でやられておる、軌道に乗ってきた駅伝大会

をぜひ存続していただくよう、町長のほうから、これもはっきり知事に申し上げていただきたい。

そして実はスポーツを取り巻く環境状態は、余りはかばかしくありません。経済状態が悪くなって業績が悪化すると、真っ先にリストラの対象になるのもスポーツでございます。しかしまた環境をよくして、選手の皆さんが、それらの能力を發揮できるような環境に持っていくのも我々の役目です。

先ほど申しましたように、来年は節目の年を迎えます。日本陸連の承認を取ろうとすると、何もせんでも、書類の提出だけでも70万円要る、そしてちょっと設備、あるいはトラックの修繕や大改修があると、2,000万円、3,000万円に上ってまいります。何とか先ほど申しました県に応分の負担、県との共有財産として、未長く立派な施設として残せるようなご尽力もお願いして、もう一度答弁を求めたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 事業仕分けの一つに駅伝が上っているということでございますけども、議員もご承知のように、事業仕分けというのは、財政的な面から費用対効果を見てどうするのかという、あくまでも財政的な面からの仕分けだというふうに思っております。

こういう政策につきましては、これはもう知事の政治判断だと思っております。継続するしないは。例えば事業仕分けで黒と出たとしても、鈴木知事が、これは政治的判断で政策で推し進めるんだということであるなら続いていくのかなというふうなことを思っております。あくまでも政治判断ではないでしょうか。

先ほども申し上げましたように、当町の陸上競技場につきましては、今いろいろ検討をさせていただいております。先ほどの議員のご指摘も、県に一度申し述べたいというふうに思います。

議長（山本 陽一郎君） 門協議員。

15番（門脇 助雄君） ぜひ町長の政治判断、県知事の政治判断を期待して、吉報を待ちたいと思います。

そして先ほど申しました命名権の件ですが、若干信憑性を持たすために、スポンサーの名前も発表させていただきます。名古屋市の総合体育館、これは日本ガイシという会社に命名権を売却しております。そして名古屋市の文化市民会館、これは中京大学が命名権を持っております。それらそれぞれの地域で代表する企業、大学が命名権を結び、そして5年契約で命名権は売却のやりとりがあると伺っておりますし、その命名権の財源は、一般財源として名古屋市も利用しております。

本町では大都市のように進まないが、以前にも若干話がありました施設の部分利用、あるいは部分活用なども期待したいと思います。

なお、命名権売却料金は、標準として利用者1人当たりの契約金額を60円程度と踏んでおり、そして年間の利用者数を掛けたものが目安と聞いております。こんな田舎ですと、先ほど言われました広告効果、あるいは宣伝効果等も当然検討対象になろうかと思いますが、10年先、三重国体の時に東員町出身の選手が一人でも多く出場していただくのを期待して、もう一度、町長の答弁を求めたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 命名権につきましては、先ほどもご答弁させていただきまして、私の就任以前から、いろいろな企業、あるいは大学等に当たっていただいているようでございますけれども、なかなか名古屋のようにはいきませんで、手を上げていただくところが見つかっておらないというのが現状でございます。ご指摘もいただいておりますし、これからもあきらめることなく、命名権の売却に向かって努力をしてまいりたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 門脇議員。

15番（門脇 助雄君） ありがとうございます。ぜひこれも政治判断が伴う問題でございます。トップセールスを期待いたしたいと思っております。

3番目の問題に移らせていただきます。

実は中央球場についてでございますが、長深からまいりました中央大橋、あの北詰めの土手に、野生の豆づる、葛と呼ぶんやそうですが、生い茂っておりますし、それも野生です、強いので、桜の木にも巻きついて、桜の木も枯れてしまっております。そして現在は、あの途中にあります電線に巻きついて、非常に景観を悪くして、あるいは防犯上も死角になります。そして昼間の時間帯がだんだん短くなってまいりました。通学道路でもあり、危険地帯です。早急に対策をお願いいたしたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 中央球場付近の豆づる繁茂につきまして、お答えを申し上げます。

議員ご指摘の中央球場西、中央大橋北詰の法面に繁茂する豆づるの箇所につきましては、県道桑名東員線で県管理路線となっております。

県管理路線は、ご指摘の路線及び国道を含めて町内に10路線ありまして、毎年6月から10月の間で、1回ないし2回、計画的に桑名建設事務所により除草作業が実施されているところでございます。

ご指摘の路線の除草計画では、6月に1回目、除草がなされておりまして、次回の除草予定は10月の中ごろであると伺っております。

しかしながら、現地は相当豆づるや雑木が生い茂っており、電柱や電線に影響を及ぼしていることは、議員もご指摘のとおりでございますので、中央大橋北詰の法

面につきましては、除草作業予定時期を前倒していただくよう、建設事務所に要望をしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 門脇議員。

15番（門脇 助雄君） 実は今おっしゃるとおり、中央球場の東の歩道は、県の管轄やと言われておるわけですが、今お話しのように、10月に2回目の草刈り作業を早めてもらうような要請を、桑名建設部にさせていただくということです。

実はこの野生の豆づると言っておるのは、先般、産業課の職員にあちこち調べてもらったら、本当の名前は葛ということ、やっと判明したわけです。

そして実はあの葛、以前にはなかった雑草です。植物の生態系も変わってきて、ああいうふうな非常に草刈り作業がやりにくい雑草が生い茂って、河川敷から中部公園の付近も、先ほど申しました調整池も、すべて葛が生い茂って、非常に作業はやりにくい。危険も伴ってまいります、時代の変化で、生態系にも変化ができておると伺っております。

その中央球場の東の歩道ですが、ちょうど2年前に長深の東員中学校へ通ってみえる生徒のご父兄から、冬になったら真っ暗で危ない、街灯をつけてくれという要請がありまして、ちょうど2年前に、あそこに街灯を2つつけていただきました。

そんなこともありますので、どうぞ危険地帯ということで、早急な対応も重ねてお願いをしておきます。町長の言われたように、10月中旬の草刈りの前倒しと伺いましたので、何とか1日も早い作業の執行をお願いいたしたいと思っております。

次に4番目の問題でございますが、実は三岐北勢線における駅前整備費の工事費ということで、資料をお配りさせていただきました。それも参考にさせていただきながら、聞いていただきたいと思います。

東員町は三岐北勢線に公共交通として多額の税金を投入してまいりました。そして資料をお配りした中で、東員駅整備工事で用地買収費、設計工事費を含んで、東員駅の南側の整備工事費として1億2,000万円、穴太駅の駅前整備工事費として8,900万円、そして3年遅れでできました東員駅の北の整備工事費として約3,800万円、駐車場整備だけで、東員町は合計2億5,000万円、こんな民間企業への投資としては例を見ないことをやっております。

今日までの事務当局で把握してみえます支出はどれだけになりましたのか、お答えいただきたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 門脇議員のご質問の、三岐鉄道北勢線への当町の投資でございますけれども、今議員がご指摘いただきました2億5,000万円弱の駐車場整備につきましては、三岐鉄道への投資というわけではなくて、事業そのものは投資ということの性格ではありますけれども、三岐鉄道に投資したのではなくて、あくまでも当町の独自の整備として行っているものでございます。

この2億5,000万円弱とは別に、当初から三岐鉄道との契約の中で、関係市町が55億円出すということで、当町はこの10年間で12億5,000万円ほどの経費を使っております。今年、来年度末には約束の10年が来ると、こういうことでございます。

議長（山本 陽一郎君） 門脇議員。

15番（門脇 助雄君） 配付させていただきました資料の中で、穴太駅前整備工事費の中で、建物移転補償費、350万円となっております。この数字を見ますと、建物は駐車場整備をするのに建っておいたのは事実ですが、移転するために350万円出しておらないかんですが、実はあの建物は移転はされておらん。2～3人の方に聞くのにも、建物は移転しておらん、取り壊し、解体していたぞということを聞くわけですが、この置き方、はっきりそうやって取り壊すということになっておれば、こんな移転補償費という紛らわしい表現やなくて解体費用、あるいは取り壊し料として、はっきり上げたほうがよいのではないかと思います。

そしてもう1点、東員町はこういうことで無料駐車場として186台つくったわけです。3カ所の駐車場で186台、駐車場をつくっております。桑名市は102台、駅の数も桑名市は多いが、駐車場は東員町より少ない。102台しかありません。そして東員町は毎年、優秀な中堅職員を1人、派遣もしております。そして桑名駅から本線に乗り入れるということは、毎年やりますとあって、耳の痛いほど聞いてきております。実現の見通しもはっきりわからんのに、もう来年とあって、私たちも期待はしてきましたが、いまだに実現しておりません。当然企業努力もされていることと思いますが、そこいらの問題点について、町長のお答えをいただきたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 穴太駅の建物移転補償費についてでございますけれども、平成16年に穴太駅前整備として、建物等移転補償費として350万円が支出されております。あそこにあった建物を、どこかへ移転していただくという趣旨で出したものかと思われましても、その後のことは、詳細については私もわかりませんので、一度調べさせていただきたいと思っております。

それと確かに議員ご指摘のように、お金以外にも北勢線対策室へ職員を派遣したり、もろもろの経費を使っております。それは表になかなか出てきていない、人件費も含めまして、出てきていないものがそこにあります。

ですから私はいつも申し上げるんですが、国から出た時間短縮のための高速化事業も含めてですけども、最初の関係市町の55億円、それと県の金、国の金、そして議員ご指摘の駅前整備にかかるお金、それから職員の派遣とか、いろいろなもろもろのお金を含めて、全体で10年間で100億円以上がここに積み込まれていると、いつも表現をさせていただくんですが、そういうことだと思います。



非常に多額のお金が北勢線につぎ込まれている中で、今、追加支援のご要請をいただいております。これにつきましては、昨日もご答弁させていただいたように、対策協議会の幹事会において、議論を進めさせていただいております。

それからもう1点、桑名駅の乗り入れの件でございますけれども、これは東員町やいなべ市で行いました駅前整備と同じように、桑名市の事業として行われるものと聞いておりますので、その辺は桑名市さんに聞いて、また今の経緯をご報告させていただきたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 門脇議員。

15番（門脇 助雄君） 今朝の新聞を見てみますと、昨日、いなべ市でもこのような問題が取り上げられて、平成25年以降の補助率、支援率を早急にいなべ市も検討したいという答弁が載っておりました。東員町も、そこいらの町長の思ってみえるご所見をお伺いいたしたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） その件に関しましては、6月もご質問いただきましたし、今回の議会でもご質問をいただいております。皆様からのご質問を含めまして、幹事会に出して協議をしていきたいと思っております。

私といたしましても、幹事会の話し合いの経緯を見せていただいて、それで当町としてどうするかという判断をしていきたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 門脇議員。

15番（門脇 助雄君） それではちょっと角度を変えて、お願いをしておきたいと思っております。

6月定例会で若干触れさせていただきましたが、日本の電気代は韓国と比べると40%も高い。それで企業の海外進出、日本から逃げて行って外国、特に東南アジア方面で新しく会社を立ち上げていきたい。それには日本の工場は、もう閉めていくというお話もさせていただきました。

実は先般、名古屋で将来、中国での仕事を希望される企業代表者などを集めて、中国で企業を起こされて成功してみえる、その代表者のお話を聞く機会がありました。

中国という国は非常にわかりにくいところもありますが、特に中国人はメンツのつぶれることを極端に嫌うと、その社長は言われております。

そこで部下をしかるとか、あるいは注意をするときに、社長は必ず当事者は別室に呼んで注意をしたりする配慮が必要や、中国に行ったら配慮をせないかんというお話も承りました。そしていくら落ち度があっても、大勢の前で絶対に言わない。絶対に大勢の前ではしからない。しかられた本人のメンツをつぶすような軽はずみなことをしたら、いつか大変な逆恨みがあるというお話もされました。

そして中国の政府の中には、恩首相、丸い顔で余り背は高くない、にこにこしたあの恩首相という方が非常に国民的人気があって、中国政府を支えておるという話、そして例えば高速鉄道、脱線事故を起こして、橋脚から1台は下へ落ちている、2両目は鉄橋のところにぶら下がっている。あんな事態があって、それやのに翌日になったら重機が来て、落ちた車両は壊して、その場で穴を掘って重機で埋める。日本では想像がつかないような事故処理をされます。それもやはり高速鉄道にかけておる中国のメンツがあるんやそうです。

やはり中国はメンツに随分こだわっている。しかし余りにもメンツにこだわり過ぎて、重機で車両を壊して穴を掘って埋めた。国民の反発、世論が、何しとんのや、政府はということで、遺族補償も原因究明もできないのに、そんなことをするというので大騒ぎになったところへ、今申しました恩首相、国民的人気のある首相を現地へ派遣。恩首相は運動靴を履いて、そして現地で、それらの鉄道を管理している監督官庁に腐敗があれば、汚職があれば、あるいは事故処理の誤りがあれば手加減はしません、手加減をせず成敗します、はっきり切りますという、このメンツを保った話で群衆がおさまった。そして補償費もほとんどが解決して、今は2～3人の人を残すだけの犠牲者の弔いになっておる。

この恩首相という方は、もう中国政府が世界にも向けての切り札やそうです。実はこの5月21日に、先般、6月定例会で申しましたが、中国、韓国、日本の3カ国の首脳会議が宮城県で行われ、恩首相も被災地へ、日本、韓国、中国の首相は被災地で首脳会議をやって、被災地の皆さん方に激励や勇気を与えるような言葉を出しております。本当に恩首相なくして中国の外交も内政も成り立っていかんと、日本から中国へ出て大成功してみえます社長のお話でした。大変参考になることと思います。

そして実は、これは以前の話ですが、退任された現職町長がありました。もう今はお亡くなりになっております。当時の幹部職員に、大勢集まっている幹部職員の前でしかりつけた。何が原因か、それはわかりませんが、町長です。職員をしかりつけた。そうしたら、その幹部職員にもメンツがあります。もう早期退職された例もあります。

どうか町長も、今申しました中国の例を参考にさせていただいて、朝市で上原議員に対する行動も若干聞きましたし、上原議員の新聞でも知ることができました。上原議員にもメンツがあります。今、中国へ進出された例も申し上げました。どうかひとつ、いま一度立ち止まって見直すぐらいの度量をもってやっていただきたい。

この9月定例会は、先ほど同僚議員が言いましたように、町長は、6月定例会から見ると随分成長されたという評価も出ました。私も同感です。顔も温厚になられた。言葉も、そんな挑発的な言葉ではなかった。どうか公衆の面前で、だれでもそうですが、中国人の今メンツの話もさせていただきましたが、誹謗中傷ということ

は、お互いに聞くほうも言うほうも、あしもたなということが、後ではだれでもあります。お互いに、これから議会と切磋琢磨してやっていただきますよう、心からお願いをいたしまして、一般質問を終わらせていただきます。